

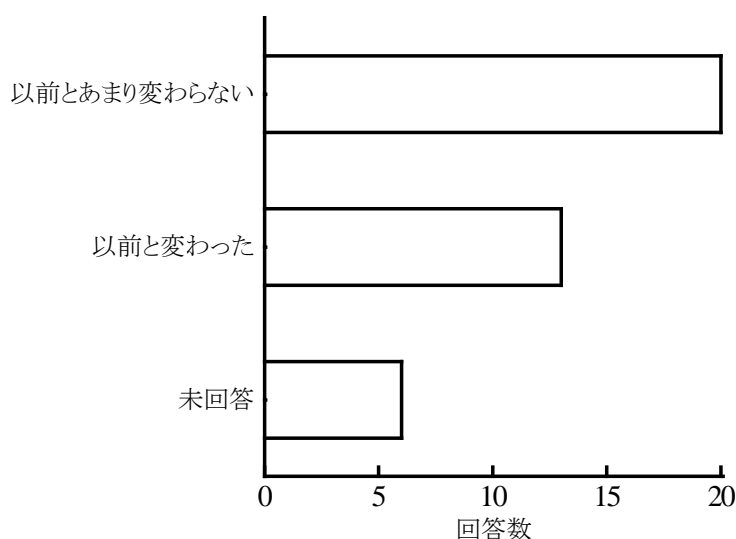
2015年度 環境・衛生部会アンケート結果

環境衛生部会・将来ビジョン検討委員会

環境・衛生部会 将来ビジョン検討委員会では、以前にも6年制の薬学部における衛生系研究活動や研究環境についてアンケートをとらせていただきました。今回は、4期目の学生が卒業を迎えたこともあり、衛生系学生の進路や就職状況ならびに大学院の状況や投稿雑誌等について、再度アンケートをとらせていただくということになりました。本アンケートは2015年4月初旬に締め切り、39大学からご回答頂いた結果に基づいています。

1. 6年制になって衛生薬学系学生の進路はどのようになりましたか。

記入例 ア. 以前とあまり変わらない イ. 以前と変わった



2. 6年制薬学部学生の進路として、病院・薬局薬剤師、MR、治験コーディネーター、大学院進学などのほかに、この4年間にとくに環境・衛生分野と思われるものにどのようなものがありましたか。また、その割合（人数）はどのくらいでしょうか。

環境・衛生分野での進路先（病院・薬局薬剤師、MR、治験コーディネーター、大学院進学を除く）

- ・公務員（国家公務員、地方公務員、食品衛生監視・衛生試験担当、府県の職員等を含む）28大学
- ・民間検査センター（食品成分等）1大学

上記進路の割合（人数）

- ・公務員 1～10人／4年間・大学

3. 日本臨床栄養協会サプリメントアドバイザーや国立健康・栄養研究所栄養情報担当者（NR）の資格取得者には、薬剤師が最も多いと報告されています。これらを含め、在学中に何か資格取得を薦めているものはありますか。

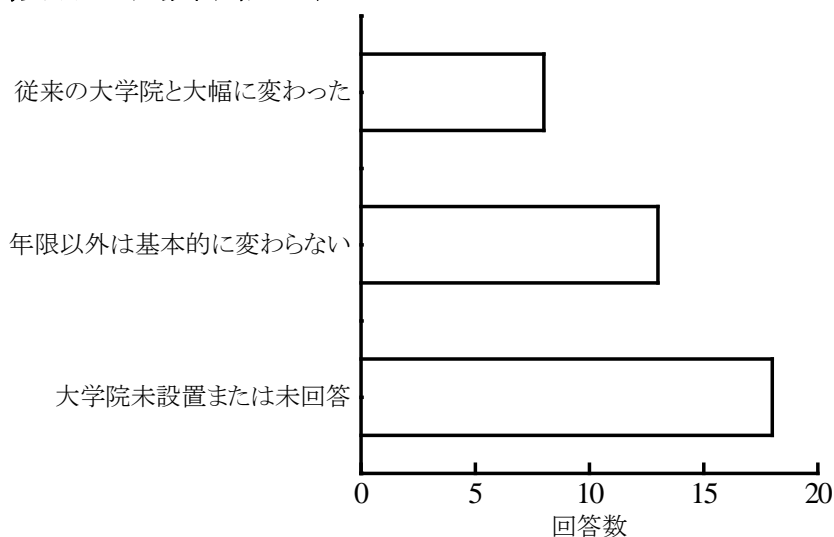
- ・NR・サプリメントアドバイザー 4大学
- ・臨床検査技師 2大学
- ・NST 専門薬剤師、健康食品管理士、食品保健指導士、環境計量士（濃度関係） 各1大学

4. 現在、臨床分野では5つの専門薬剤師制度が認定されています。また、学会や認証機構(団体)が独自に行っている認定薬剤師制度も存在します。環境・衛生分野においても、専門薬剤師制度や認定薬剤師制度が今後必要であるとするならば、具体的にどのような分野・職種が対象となるべきでしょうか。

- ・学校薬剤師 11 大学
- ・中毒認定薬剤師 3 大学
- ・衛生管理・指導薬剤師、保健指導認定薬剤師、
認定環境保全薬剤師(放射線、大気、水環境指標の知識、測定の専門家)、
労働衛生専門薬剤師、予防薬学認定薬剤師(患者へのワクチン接種ができる)、
スポーツファーマシスト 各1 大学

5. 6年制衛生薬学系学生を受け入れる大学院はどのような状況でしょうか。

状況について(回答例:ア. 臨床系に組み込まれ従来の大学院と大幅に変わった イ. 年限以外は基本的に変わらない;受け入れ人数、特徴など)



(各大学の3ポリシーの紹介は割愛させて頂きました)

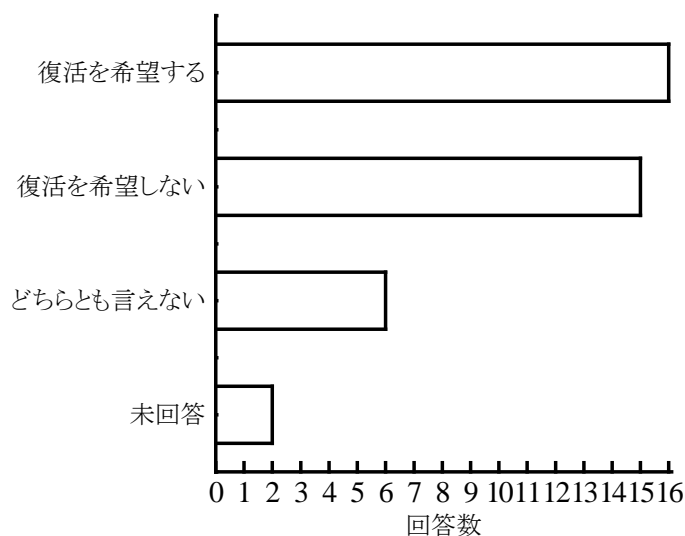
6. 衛生薬学系大学院生や若い研究者の研究論文の投稿先として、現在どのような雑誌を想定されていますか。

- ・Biol. Pharm. Bull. 18 大学
- ・J. Toxicol. Sci. 8 大学
- ・Chem. Pharm. Bull. 5 大学
- ・Toxicol. Appl. Pharmacol.、Toxicol.、Toxicol. Lett. 4 大学
- ・薬学雑誌 3 大学

(その他多くの雑誌をご紹介頂きましたが割愛させて頂きました)

7. 日本薬学会の雑誌のなかで、今後、環境・衛生分野の専門雑誌の復活は希望されますか。復活を希望される場合、どのような雑誌を期待しますか。また、その理由は何でしょうか。

記入例 ア. 復活を希望する イ. 復活を希望しない



復活を希望される場合、どのような雑誌を期待しますか。

- ・ J. Health Sci.、衛生化学またはそれに準ずるもの 5 大学
- ・ オンラインジャーナル 3 大学
- ・ 衛生薬学領域を幅広く対象とし日本語でも投稿が可能な雑誌、
環境汚染物質の毒性・予防薬学研究に関する雑誌、
研究手法が分子生物学的であるか否かを問わない雑誌、
通常 of 英文投稿による衛生学関連の専門誌、
英語論文を投稿できること 各 1 大学

復活を希望される場合、その理由は何でしょうか。

- ・ 衛生薬学系大学院生や若い研究者の研究論文の投稿先として有望なため
- ・ 衛生薬学あるいは毒性学の範疇に入るため
- ・ 日本語で執筆できる雑誌であれば、大学院生自身が投稿しやすい
- ・ 薬学会関連の雑誌で、環境系の論文の投稿先がないため
- ・ 衛生分野（特に疫学）における英文を投稿する雑誌がないため
- ・ 環境・予防衛生的内容を網羅する論文投稿誌として適切な雑誌が存在しない
- ・ 1 つの独立した Title の雑誌がある方が良い
- ・ 国内外での予防薬学に関する有益な知見を集約できる
- ・ 衛生かつ薬学の研究を発表する場が必要
- ・ JHS が研究内容・スタイルにあっていた
- ・ 大学所属の研究者や大学院生だけでなく、地方衛生研究所などに勤務する研究者からの投稿先としての選択肢が広がり、この分野の活性化につながる
- ・ BPB の中だけでは、衛生薬学系の特徴が分かりにくい
- ・ 論文の投稿先の選択肢は多い方が良いから

8. 6年制薬学部後の衛生薬学系大学院生の進路として、今後どのようなものが考えられますか。あるいは、あらたに開拓しているものはございますか。

大学ごとの回答：

- ・薬物乱用問題、学校薬剤師関連
 - ・公務員、教員、WHOや衛生研究所などの国内外の衛生関連研究機関
 - ・感染制御専門薬剤師やNST専門薬剤師の認定を目指し、病院での業務に携わる進路
 - ・国立医薬品食品衛生研究所、国立循環器病研究センター、(独)医薬基盤研究所、大阪府立成人病センター、(独)医薬品医療機器総合機構
 - ・WHOなど国際的な機関
 - ・行政関連、地方公務員（衛生行政、保健所など）
 - ・予防薬学の分野から健康・環境問題や災害へのリスク管理を指向する薬事行政
 - ・衛生行政（環境衛生研究所、科学捜査研究所等の分析・評価業務を含む）系進路
 - ・製薬企業の開発、公的研究機関、保健所・科捜研など特殊技能公務員などへの就職
- 複数の大学からの回答例：
- ・教員、病院、公務員

9. 環境衛生部会・将来ビジョン検討委員会で今後とりあげるべき内容について、ご意見があればお聞かせください。

- ・他分野・異分野融合
- ・食品の機能表示の科学的根拠の検証や評価
- ・臨床現場で必要とされる医薬品の作用機序，構造および治療に関する知識と衛生関連科目との分野横断型授業などの実施状況や方法などの事例を知りたい
- ・大学院修了者の進路、若手研究者の研究時間・資金
- ・市民を対象にした公開セミナー
- ・フォーラムの内容や開催時期について